

清流の国ぎふ

地歌舞伎 勢揃い公演

明智町歌舞伎保存会 (恵那市)

大正八年、恵南地域六カ町村の有志が中心となり、名古屋市内にあった明治座を買い取って、現在の恵那市明智町へ移転改築し、地域唯一の文化的な会館劇場「常盤座」が生まれました。以来、五十五年間の長きにわたり、歌舞伎や演劇が行われましたが、戦時色が深まるとともに下火となりました。

戦後、歌舞伎の文化が再興し、明智町歌舞伎愛好会を作り、昭和四十五年には当保存会を立ち上げました。しかし、役者不足や資金不足等のため「常盤座」の維持が困難となり、昭和四十九年に取り壊し、本舞台のみ瑞浪市日吉に移し、「相生座」の一部として残りました。

その後、上演が一時休止しましたが、「明智町文化センター」の建設により、昭和五十八年に第一回地歌舞伎公演を行い、その後二年おきに計六回の公演を行いました。平成六年に「明智かえでホール」が完成すると、舞台を当ホールに移し、今に至ります。

会員一同、伝統ある当保存会の継承に全力を傾けています。



坂下歌舞伎保存会 (中津川市)

明治二十年代、坂下村(現在のの中津川市坂下)では、奉納芸としての地歌舞伎が益々盛んになり、村内の四つの地区それぞれが、神社の境内に芝居小屋を建てました。

昭和四十二年、当時の坂下町長を中心に、新しい時代の歌舞伎伝承のあり方と舞台の保存が検討され、会員制の「坂下歌舞伎保存会」が発足しました。同時に、映画館となっていた「萬歳座」は保存会に譲渡され、保存会が管理を行うこととなりました。しかし、旗揚げ公演から間もない同年四月、不審火によって萬歳座を焼失してしまいました。

当保存会では、会員の熱意と地元への支援によって萬歳座焼失の悲劇を乗り越え、坂下神社直会殿を舞台に改造して公演を再開しました。その後は現在の坂下公民館へと舞台を移し、毎年公演を続けています。

また、昭和五十七年からは子ども歌舞伎にも取り組み、当地出身の歌舞伎役者「市川笑三郎」は、少年時代、子ども歌舞伎の人気者で、大人顔負けの名演技は、今も語り草となっています。



新型コロナウイルス感染予防対策について 安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- ・発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- ・マスク着用の厳守(マスク非着用の方はご入場できません)
- ・手指消毒及び検温の実施(37.5℃以上の方はご入場できません)
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・出演者への声援や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止
- ・公演中のおひねり、大向こうの禁止

※「岐阜県感染警戒QRシステム」の登録をお願いします。ご登録をいただきますと、感染者が発生した場合、同じ日に来訪された方にメールでお知らせいたします。

次回公演のお知らせ 2日間連続開催! ※詳細はホームページにてお知らせいたします。

清流の国ぎふ **地歌舞伎 勢揃い公演** 秋

11月26日(土) 出演：可児歌舞伎(可児市)・美濃歌舞伎保存会(瑞浪市)・岐南町伏屋獅子舞保存会(岐南町)

11月27日(日) 出演：飛騨市河合町歌舞伎保存会(飛騨市)・鳳凰座歌舞伎保存会(下呂市)

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中!

地歌舞伎とは、地域の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

「清流の国ぎふ」文化祭2024をきかけプログラム

清流の国ぎふ

地歌舞伎

勢揃い公演

2022年7月24日(日)

◆会場 **ぎふ清流座**

(ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)

◆開演 14時00分 (開場13時00分)

◆上演外題・出演

14時00分 (40分)

うきよづかひよくのいなづま **浮世柄比翼箱素** 仲ノ町鞆当の場

明智町歌舞伎保存会 (恵那市)

14時40分 (20分)

特別プログラム 「地歌舞伎メイク講座」

15時20分 (70分)

かなでほんちゅうしんぐら **仮名手本忠臣蔵** 七段目 **祇園(カ)茶屋の場**

坂下歌舞伎保存会 (中津川市)

終演 16時30分 (予定) 演目等は変更となる場合がございます。



坂下歌舞伎保存会



明智町歌舞伎保存会

特別プログラム

「地歌舞伎メイク講座」

顔師による歌舞伎メイクを特別披露

出演 顔師 松本 宙士氏

司会 葛西 聖司氏

イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

地芝居大國ぎふ応援大使
古典芸能解説者 葛西 聖司氏



第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭

「清流の国ぎふ」文化祭2024

ともに、つなぐ・みらいへ。～清流文化の創造～
2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)

主催 / 岐阜県・(公財)岐阜県教育文化財団
協力 / 岐阜県地歌舞伎保存振興協議会



うきよづかひよくのいなづま なかのちようさやあて
浮世柄比翼稲妻 仲ノ町鞘当の場 明智町歌舞伎保存会 (恵那市)

鞘当は四世鶴屋南北の作で文政六年(一八二三年)三月市村座初演と記録されています。
 舞台は花の吉原仲ノ町。お茶屋娘のお松、お梅、見回りの竹松、六助が登場し舞台を華やかに盛り上げます。

そこへ不破伴左衛門は黒地に「雲に稲妻」、名古屋山三は浅葱に「雨にぬれつばめ」の羽織で登場します。互いに牽制しながらすれ違おうとした際に腰にさした刀の鞘が当たります。元々この二人は同じ藩にいた時から対立していた因縁があり、名古屋の恋人である傾城葛城太夫に不破は横恋慕をしています。双方言いつのつて喧嘩になったところで留女のお福が止めに入り丸く収まります。鞘当の趣向と立廻り、丹前六法と呼ばれる独特な歩き方、舞踊など華やかな一幕となっています。

◆配役

不破伴左衛門 (中学二年生)	伊藤 百音	お松 (小学四年生)	堀花帆
名古屋山三 (中学二年生)	寺澤 和奏	お梅 (小学五年生)	水草 舞音
お福 (六歳)	橋本 奈々枝	後見	伊藤 政治
竹松	水草 朱音 (中学二年生)	岡村 昌子	
六助	水草 輝星 (六歳)		

浮世柄比翼稲妻 仲ノ町鞘当の場

※は登場しない人物

かなでほんちゆうしんぐら ひちだんめ ぎおんいちりきちやや
仮名手本忠臣蔵 七段目 祇園一力茶屋の場

坂下歌舞伎保存会 (中津川市)

おおほしゆらのすけ 大星由良之助は、敵の目をくわすための遊蕩三昧。祇園の茶屋一力に通いつめています。一力には夫 勘平の仇討の醜金を作るため身売りしたお軽が遊女になっています。お軽の兄 平右衛門は、由良之助のところへ意見に来た若い血気の同志たちのお供で一力にやって来ています。

師直に内通している九太夫は、由良之助の仇討の意志を探りに来て、亡君の命日前夜とみて酒の肴に蛸を食わせてみたり、由良之助がわざと置き忘れた刀を検めたりした上に、念のために縁の下に潜んで様子を探っています。

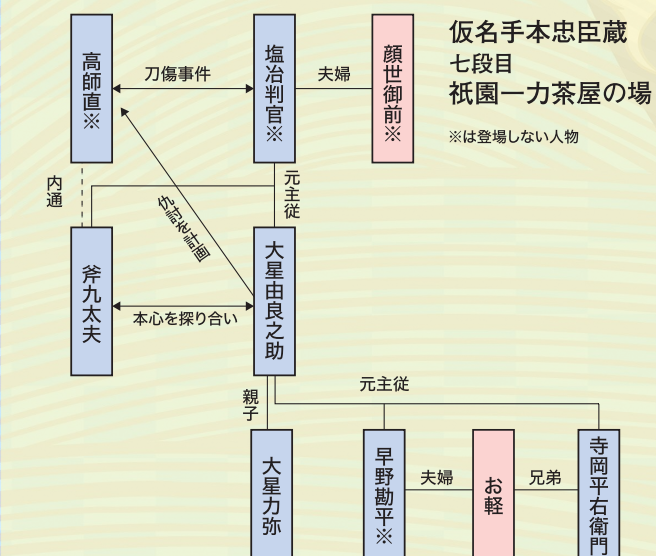
横になっている由良之助に、長男力弥が亡君の妻 顔世御前からの密書を届けに来ます。釣灯籠の明かりで由良之助が読む手紙を、二階からお軽が、縁の下では九太夫が盗み読んでしまいます。由良之助は秘密を知ってしまったお軽を身請けしようとしています。

そこへ来合わせた平右衛門は、妹の身請けの経緯を聞き、由良之助がお軽を請けだした後で刺殺して秘密を守ろうとしていることを察知して、それならいっそ兄の手でとお軽に斬りつけます。平右衛門の話で、勘平の死を知ったお軽は自害しようとしています。

それを止めた由良之助は平右衛門を一味に加えます。そして九太夫をお軽に討たせて勘平の手柄とし、年季証文を手渡します。

◆配役

- | | | |
|---------------------|----------------------|------------------|
| おおほしゆらのすけ
大星由良之助 | やまうち そうたろう
山内 總太郎 | じまゆう
女中 松田 郁実 |
| てらおかへいえもん
寺岡平右衛門 | よしむらのぶひろ
吉村 伸広 | |
| おかる
お軽 | はまだ みほこ
濱田 美保子 | 後見 平松 明弘 |
| おおほしりきや
大星力弥 | あきやま しおん
秋山 至音 | やすえ ゆみ
安江 裕美 |
| おのくだゆう
斧九太夫 | いわさき なおき
岩崎 直生 | こしの そのみ
越野 園美 |



イヤホン同時解説

葛西 聖司氏

東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。「教養として学んでおきたい歌舞伎」「教養として学んでおきたい能狂言」「僕らの歌舞伎」「文楽のツボ」ほか著書多数。令和四年四月より地芝居大国ぎふ応援大使に就任。



協力

- | | |
|------|--------|
| 振付指導 | 松本 団女 |
| 太夫 | 竹本 龍豊 |
| 三味線 | 豊澤 賀祝 |
| 下座 | 松本 奈津美 |
| 顔師 | 松本 宙士 |
| 床山 | 松本 匠平 |
| 着付 | 松本 真由美 |
| 衣裳 | 松本 美登里 |
| | 三宅 恵里奈 |
| | 松本 衣裳 |